

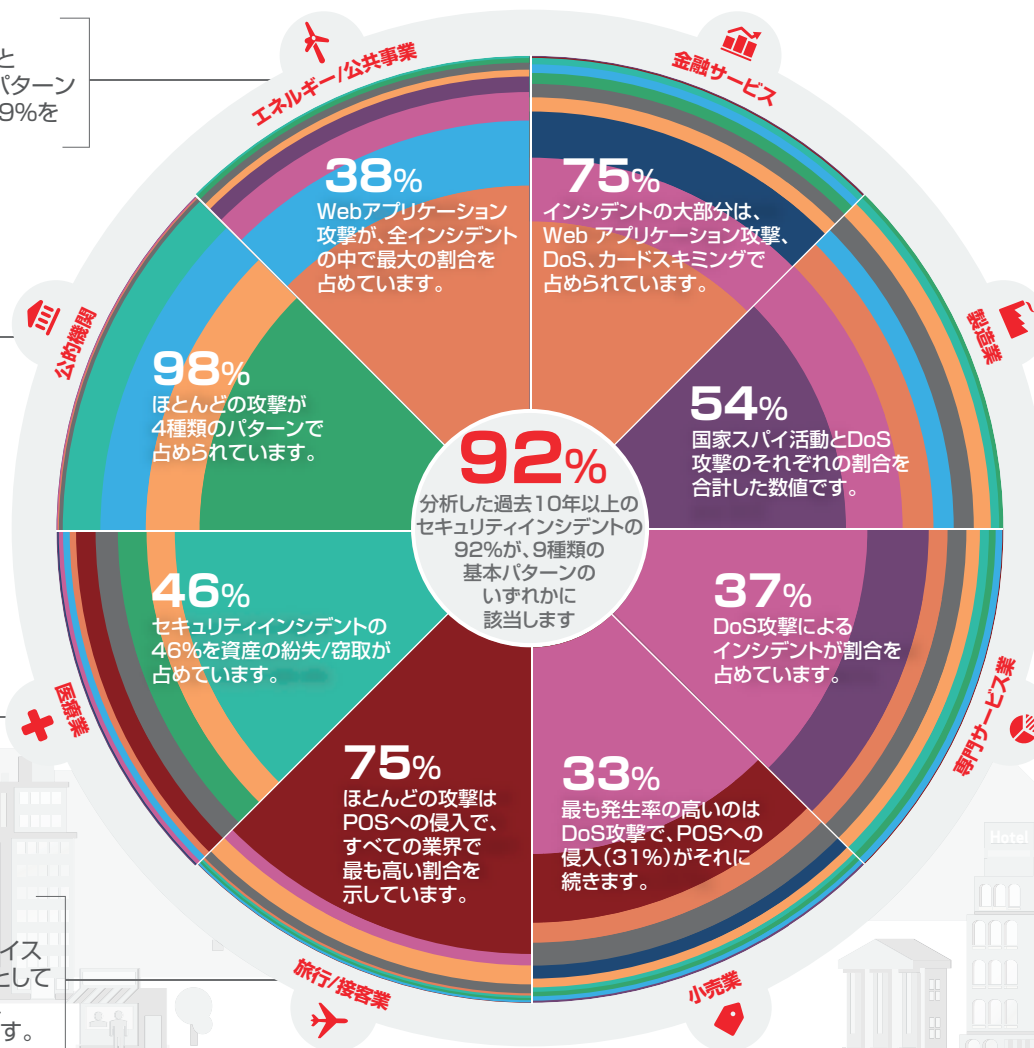
2014年度 データ漏洩/侵害調査報告書

本調査は、世界各国50の企業・組織による協力のもと、ベライゾンによって実施されました。

セキュリティインシデントの大部分は、9種類の分類パターンのいずれかに該当します。

2013年、ベライゾンは63,000件以上のセキュリティインシデント、そして、1,300件以上の確認済みの漏洩/侵害事例を分析することで、重大な脅威に関する新しい知見を提供し、防止策の強化に貢献しました。本年度の報告書では、過去10年間に発生した100,000件のセキュリティインシデントから、全インシデントの92%を占める9種類の基本的なパターンを特定しました。

- POSへの侵入
- Webアプリケーション攻撃
- 内部者による不正使用
- 物理的窃取/紛失
- 人的ミス
- クライムウェア
- カードスキミング
- DoS(サービス拒否)攻撃
- 国家スパイ活動
- その他すべて



エネルギー/公共事業
Webアプリケーション攻撃とクライムウェアの2種類のパターンだけで、全インシデントの69%を占めています。

公的機関
人的エラー(34%)、内部者による不正使用(24%)、クライムウェア(21%)、資産の窃取/紛失(19%)が発生率の高いインシデントです。

医療業
資産の物理的窃取/紛失の多くが職場で発生しており、乗り物の中や自宅で発生する割合を上回っています。

旅行/接客業
攻撃の4分の3が、POSデバイスおよびPOSシステムを標的としています。これに対応するには、PCIに準拠することが重要です。

詳細については、ベライゾン「2014年度データ漏洩/侵害調査報告書」をダウンロードしてください。

verizonenterprise.com/jp/DBIR/2014